

目標管理型の政策評価に係る評価書の標準様式

施策名	目標9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発					
施策の概要	環境の状況の把握、問題の発見、環境負荷の把握・予測、環境変化の気候や環境影響の解明・予測、環境と経済の相互関係に関する分析、対策技術の開発など各種の調査研究・研究開発を実施するとともに、研究開発のための基盤の整備、成果の普及により環境分野の研究・技術開発を推進し、環境問題の解決や持続可能な社会の構築の基礎とする。					
達成すべき目標	環境技術の研究開発を進め、環境と経済の統合された社会の実現に寄与する。					
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	
	予算の状況(千円)	当初予算(a)	-	9,956,418	13,008,853	12,729,705
		補正予算(b)	-	-	308,797	-
		繰り越し等(c)	-	△312,473	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	-	9,956,418	(※記入は任意)	
執行額(千円)	-	9,540,030	(※記入は任意)			
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	<p>第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)において、以下のことが述べられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術は、我が国の豊かさや人々の安全な暮らしの実現、経済をはじめとする国力の基盤の構築に資するとともに、知のフロンティアを切り拓き、我々人類の直面する課題の克服に貢献するための手段である(第1章 4.(1)) ・新たな価値の創造に向けて、我が国や世界が直面する課題を特定した上で、課題達成のために科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進するとともに、イノベーションの源泉となる科学技術を着実に振興していく必要がある。(第1章 4.(2)①) 					

測定指標	1 環境研究総合推進費の事後評価(5段階)で上位2段階を獲得した課題数(上位2段階の課題数/全評価対象課題数)	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
		-	18/21 (85.7%)	22/33 (66.7%)	26/36 (72.2%)	20/38 (52.6%)	18/46 (39.1%)	60%以上
	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	
	2 環境技術実証事業における実証技術数(単位:件)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
	20年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度	
	87	48	87	87	72	49	対象技術分野数×10	
年度ごとの目標値	-	50	60	70	70	80	-	

施策に関する評価結果	目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・環境研究総合推進費(競争的資金)については、測定指標の実績値低下に対応し、中間評価の厳格化と適切なフィードバックにより、確実な所期目標達成支援を図っているところ。 ・環境技術実証事業における実証技術数については、手数料徴収体制に移行した分野があったことなどから、23年度は目標値に及ばなかったが、近年安定的に推移し、通算443技術を実証しており、アメリカに次いで世界トップレベルの実績を有している。
	目標期間終了時点の総括	

学識経験を有する者の知見の活用	研究・技術開発課題については、外部有識者により事前・中間・事後評価を実施しており、その評価結果を踏まえ研究・技術開発を実施している。
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	・環境技術実証事業:実証技術情報(実証結果一覧) http://www.env.go.jp/policy/etv/list_20.html

担当部局名	環境研究技術室 環境計画課	作成責任者名	長坂 雄一 加藤 庸之	政策評価実施時期	平成24年6月
-------	------------------	--------	----------------	----------	---------